

親は別々、ドングリきょうだい

みなさん一度は口ずさんだことがあるだろう「どんぐりころころ」の作曲者は、札幌出身の梁田貞^{やなだ}（1885-1959年）です。この曲を作るときに故郷のドングリを想うかべたかどうかはわかりませんが、札幌にはどんなドングリが見られるのでしょうか。

実は「ドングリ」という名前の植物はなく、ドングリはブナ科の果実をまとめて呼ぶニックネームのようなもので、正式な専門用語ではありません。

ブナ科の中でも、札幌やその周辺でみられるのはコナラ、ミズナラ、カシワ、クリの4種で（図）、ドングリ観察には恵まれた地域と言えます。なぜなら、札幌が位置する北緯43度付近は自然のクリとコナラが見られる日本の中で一番北の地域（北限）であり、その上北海道より北の寒冷な気候でも生育できるミズナラやカシワも自生するのです。また、石狩湾海岸のカシワ林は全国的にも有数の面積があります。

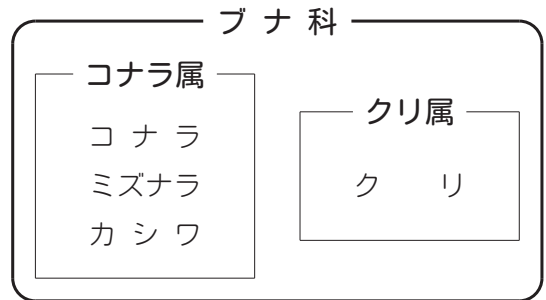


図. 札幌に自生するブナ科。

ドングリを見たら、頭上を見たり足元を見回したりして葉や殻斗^{かくだう}（通称“帽子”）を見つけて、その“親”が何なのか探してみましょ。 (文・スケッチ：山崎)

<p>コナラ</p> <p>葉 平岡公園、羊が丘などで見られる。</p> <p>5~15cm</p> <p>葉柄が長い。</p>	<p>ミズナラ</p> <p>葉 道内全域で普通に見られる。</p> <p>7~15cm</p>	<p>カシワ</p> <p>葉 石狩浜～銭函で見られる。</p> <p>10~30cm</p>	<p>クリ</p> <p>葉 野幌森林公園などに限定される。</p> <p>7~14cm</p>
<p>果実</p> <p>1.6~2.2cm</p> <p>殻斗</p>	<p>果実</p> <p>2~3cm</p> <p>殻斗</p>	<p>果実</p> <p>1.5~2cm</p> <p>殻斗</p>	<p>果実</p> <p>2~3cm</p> <p>殻斗 (イガの部分)</p>

図. 札幌で見られるドングリ※街中や公園でみる大きくてベレー帽のような殻斗をもつドングリはアカナラ（北アメリカ原産）です。

「博物館」を意味する英語Museumの語源であり、喜びを表すmuse（ギリシャ語）と通信や手紙を意味するLetter（英語）からMuseLetterと名付けました。

第7回 自然探求サポート事業

今年は6件の応募の中から、悩んだ末に3件（下記）に決定しました。それぞれが自宅近くのフィールドで調査を開始！ それぞれ専門家がついて小中学生の調査研究のサポートをしています。



「札幌にはどんな野鳥がいるのか知りたい」

（北区、小学6年 女子2名）主な調査地：百合が原公園



双眼鏡も使いこなしています。（撮影：参加者）



マガモ(百合が原公園にて)（撮影：参加者）

「水の中の生き物を調べてみたい」

（中央区、小学4年、1年 女子2名）調査地：旭山記念公園 界川



野外から帰ってすぐ調べよう。



界川にて調査中。



テングタケを発見して興奮！（7月25日）

「身近な地域でのキノコの植生や分布、生えやすい天候などについて調べたい」

（中央区、中学1年 男子3名）調査地：旭山記念公園



シロソウメンタケ(8月21日)